

その他の特徴的な取組

資料 3 － 1 : 「生涯活躍のまち」推進のための県レベルでの取組事例

資料 3 － 2 : その他の取組概要

- 取組に一定の具体性や進捗が見られる市町村
・・・徳島県美馬市、鹿児島県伊仙町
- コンセプトや個別分野で特徴のある市町村
・・・広島県三原市

「生涯活躍のまち」推進のための県レベルでの取組事例

(1) 管内の市町村の取組の実情把握

■市町村との情報共有等の場の設定

- 『北海道「生涯活躍のまち」推進ネットワーク』の設置 (H29.7~)。取組の推進意向があるまたは検討中などの市町村に向けた情報提供及び全体会議での取組状況の共有・意見交換の実施。【北海道】
※開催実績：H29.9、H30.3
- 県、市町村、民間団体等で構成する「秋田版生涯活躍のまち推進協議会」を設置し、情報・意見交換等を実施することにより、県内の取組状況等を把握。【秋田県】※開催実績：H29.8、H30.1
- 市町村職員向け勉強会の開催。【長野県】
※開催実績：H28.9、H29.1
- 伊豆半島地域において、「伊豆半島生涯活躍のまちづくり推進協議会」を設置して、伊豆半島地域内の市町と情報共有。【静岡県】
※開催実績：H29.12、H30.3
- 市町村や事業者、大学等からなる庁外会議「『ゆかりの徳島』里帰り戦略会議」を平成設置し、本県ゆかりの高齢者の受入れ環境の整備に関する課題及びその解決策の検討等を行うとともに、「生涯活躍のまち」の推進についての意見交換・情報共有を実施。【徳島県】※開催実績：H30.3

(3) 管内の市町村への財政支援

■財政支援

- 生涯活躍のまちに取り組む県内市町村が、基本計画の策定や策定に向けた事業化可能性調査等の補助（「山形県生涯活躍のまち事業化推進事業費補助金」。補助率1/2・上限100万円）【山形県】
※支給実績：1団体（H29年度）
- 新たに生涯活躍のまちに取り組む市町村があった場合、モデルプラン作成に係る経費を支援【鳥取県】※支給実績：2団体（H27年度）
- 「生涯活躍のまち」を推進するため、申請のあった美馬市及び海陽町に対し、「徳島版『地方創生特区』」の指定を行い、財政支援を実施【徳島県】※支給実績：2団体（H29年度）
- 市町村構想策定に要する経費への補助（補助率10/10・上限250万円）【高知県】※支給実績：2団体（H28年度）

(2) 管内の市町村への情報等支援

■県レベルでの取組指針・マニュアル等の策定

- 『生涯活躍のまち』に関する取組指針を策定 (H29.3)。【北海道】
 - 「秋田版生涯活躍のまち構想」を策定。【秋田県】
 - 『徳島型CCRC・生涯活躍のまち』マニュアルを策定 (H28.3)。【徳島県】
 - 『長崎県CCRC（生涯活躍のまち）基本指針』を策定 (H28.11)。【長崎県】
- ### ■先進事例、取組モデル等の情報提供
- 道内外の取組を紹介するメールマガジンを発行。【北海道】
 - 県、市町村、民間団体等で構成する「秋田版生涯活躍のまち推進協議会」で、先進事例等の情報提供とともに、意見交換等を実施することにより、市町村の取組を支援。【秋田県】
 - 伊豆半島における3つのモデル事業を支援。モデル事業の取組や県内外の先進事例調査の結果をパンフレットや事例集としてまとめ、情報提供することにより、市町村の取組を支援。【静岡県】
 - 平成28年度に、県、市町村による研究会を開催。移住に関する意識調査や先行事例調査等を行いながら、「生涯活躍のまち」の課題や方向性を整理し、市町村に対して取組のモデルを提示。【愛知県】
 - 平成28年度に市町村と大学、金融機関、社会福祉協議会等で構成する、「大分県CCRC研究会」を設置。地域への経済波及効果や事業モデルの検討を実施。【大分県】

(4) その他

■都市部でのPR

- 移住フェアにおける「生涯活躍のまち」ブースの出展。移住フェア（北海道暮らしフェア (H29.10 大阪、H29.11 東京)）等において、道及び道内市町村の取組を紹介するなどのPRを実施。【北海道】
 - 生涯活躍のまち移住促進センターに取組町（湯梨浜町、南部町）のブースを出展。県外向けの情報発信を実施。【鳥取県】
 - 東京・大阪等で市町村と連携した移住交流イベントを開催。【徳島県】
- ### ■担当コーディネーターの配置による支援
- 全道コーディネーターを配置。取組推進上の疑問や課題に対し電話等での相談対応、助言のほか、現地意見交換会を実施。【北海道】

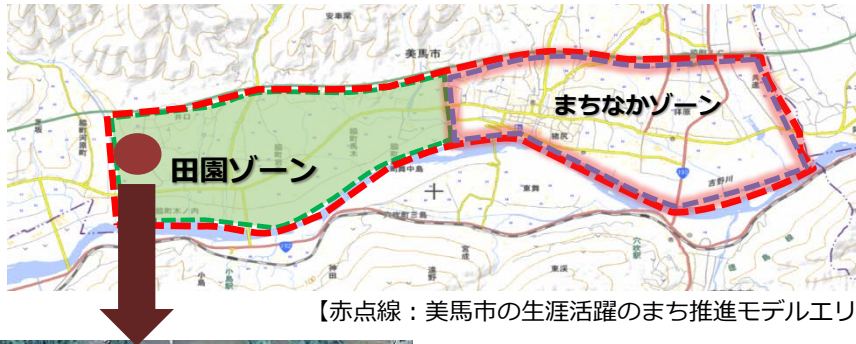
注）平成29年度「生涯活躍のまち」に関する意向等調査（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局実施）において、「生涯活躍のまち」に関連する取組について、『既に取組を開始している』と回答した道府県に対する追加調査の主な回答を整理。なお、※は取組を実施した直近年度の実績を記載。

〔コンセプト〕

『新たな住民とともに、多世代協働でつくる 生涯健康・生涯活躍のまち美馬』

美馬市の暮らし、風土、文化、歴史など、地域の良さに共感してもらえる新たな住民を迎え入れ、多世代が協働しながら生涯健康で活躍することのできる持続可能な地域づくりを進める。

〔移住促進拠点「アクティブライフタウン」〕



【赤点線：美馬市の生涯活躍のまち推進モデルエリア】

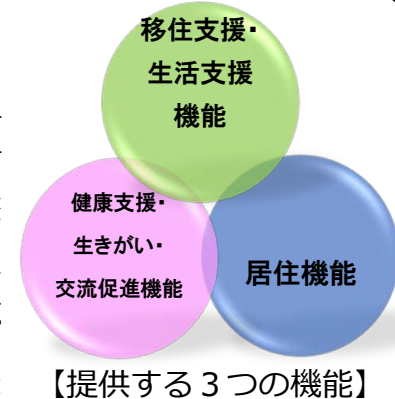


【脇町・小星地区】

- 移住促進拠点は、
 - 一定程度まとまった土地
 - 官民連携でスピード感を持って進めるため、公有地を活用（県有地）
 - ハザードマップ上の危険区域外を考慮し、決定。
- 障害者支援施設やデイサービス、移住交流センター、（H29.10オープン）、高齢者施設が周辺に位置している。

〔提供する機能〕

- 移住促進拠点には「移住支援・生活支援機能」・「健康支援・生きがい・交流促進機能」・「居住機能」の3つの機能を整備。
- 具体的には、中・高齢者や若者向けの住宅を概ね35戸、交流施設やアクティブライフ・コーディネーターの執務スペースなどの整備を予定している。



〔今後の予定〕

- H30年度に地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業）申請予定。
- 今後は、「美馬市生涯活躍のまちモデル事業」事業計画（案）作成及び事業運営希望者として選定された「有限会社 円満」とともに、協議していく。
- H30年度に「美馬市生涯活躍のまち推進会議」に本計画を諮り、承認を得た後に、本格的に事業展開を図る。

基礎データ

- 人口：29,544人（H30.3月時点）
- H28.2 生涯活躍のまち構想策定、H29.3 生涯活躍のまちモデル事業プラン
- 地方創生先行型交付金、地方創生加速化交付金を活用
- 事業主体：有限会社 円満（「美馬市生涯活躍のまちモデル事業」事業計画（案）作成及び事業運営希望）



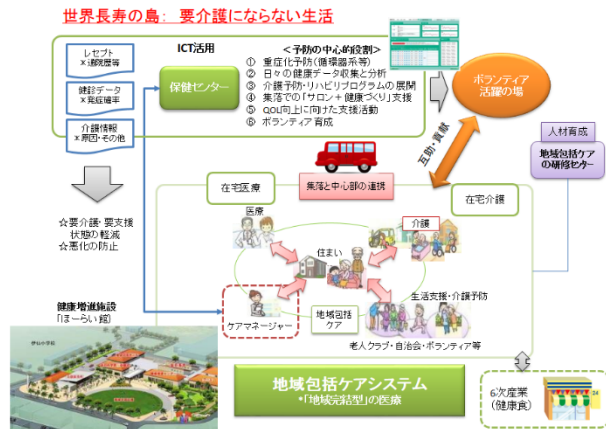
鹿児島県伊仙町

【コンセプト】

『離島版「生涯活躍のまちづくり」～集中から分散へ～』

長寿世界一、合計特殊出生率日本一の「長寿・子宝のまち伊仙町」としての強みを生かし、子供達、子育て世代、アクティブシニア世代、そして移住者など、性別、障がいの有無にかかわらず、町に住む全ての住民、そして移り住んでくる全ての人々が生涯輝けるまちづくりを集落単位で推進する。特に子宝日本一の実績をPRしつつ、子育て支援、学習支援を強化し、同時に地域力を生かした包括ケアシステムを更に高度化し、島の地域性である多世代交流拠点と、活躍の場面づくりを展開する。

【地域包括ケアシステムの確立】



【保健センターとの連携を行う 地域包括ケアシステム】

- 要介護にならない生活習慣作りと、地域における多世代交流でQOLを向上させ、様々な集落活動への参加を促す。地域集落での活躍の場をつくり、高齢者の見守り機能も強化させ、アクティブで、かつ健康長寿延伸可能な地域づくりを目指す。
- 健康増進施設「ほーらい館」を拠点とした介護予防プログラムを発展させつつ、これまで地域包括支援センターが各集落で実施してきた地域サロン拠点を増やし、健康寿命の延伸化を図る。



【地域包括支援センターで 開催されたいきいき教室】

【住まいの整備】

【空き家改修事業】

- 空き家改修事業にてH29年度に7件を実施、H30年度も継続し、移住の促進を図る予定。
- 民間企業による空き家の改修、民泊運営も後押しし、高まる移住希望者の住居面でのニーズを埋める取組を行う。

【町営住宅建設事業】

- 小学校区単位での各集落への町営住宅建設を、PFI方式により順次進めている。集落維持のための「分散」施策。
- H29年度は2つの集落で11世帯分の町営住宅を整備。
- H30年度以降、順次各集落で町営住宅の建設を予定。

【今後の予定】

- H30年度に地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業）申請予定。
- 移住希望の子育て世代にとって判断基準となる教育レベル向上のために、図書館と学習支援センターを併設する複合施設をH32年度までに整備予定。
- お試しサテライトオフィス事業（総務省）で来島した企業と、コワーキングスペースの創出、島の自然資源を使った製造業、教育支援、デザイン会社の創出など、地元雇用を視野に入れた新規事業立ち上げを予定。

基礎データ

- 人口：6,751人（H30.4月時点）
- H27.12まち・ひと・しごと創生伊仙町総合戦略策定
- 地方創生先行型交付金、地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金（H28.第2回）を活用
- 事業主体（予定）：（仮称）社団法人 徳之島長寿子宝社他



広島県三原市

〔コンセプト〕

『～（仮）みはらし良好～ 穏やかに 自分らしく 充実のセカンドライフ』

市内に居住するシニア層向けに、生きがいや収入を得ることや、自分も周りも幸せにするような「欲張りなセカンドライフの実現」につながる基盤を構築するとともに、移住・定住施策とも連携させたまちづくりを進める。

〔生涯活躍のサポートステーション（Connect）〕

生涯活躍

生きがい・人生の目的
（→健康寿命の延伸）

就労充実・働き方支援

◆これまでの知識や経験等を活かして収入につなげたり、希望する働き方を実現させたりする取組への支援

生活充実・向上支援

◆趣味や学習、健康づくりなど、日常生活の満足度を高め、意識や行動の変容を促す取組への支援

⇐生涯活躍の支援
拠点を整備

・シニアの活躍に向け、シニア世代の相談に応じたり、交流を促進したりする以下の機能を持った拠点をNPO法人が整備（H30.2.20供用開始）。

- ①情報×交流スペースの提供・・・相談窓口、交流スペース等
- ②大人の就活・・・仕事情報の提供等
- ③コワーキングスペースの貸出・・・シェアオフィス等
- ④チャレンジスクールの運営・・・企画のサポート等
- ⑤お手伝いネットによる人材マッチング・・・ボランティア募集等

〔就労充実・働き方支援〕

- ・シニア世代の仕事面での活躍の場の創出に向け、仕事の見学・体験を行う「お試し就労」（シニア版インターンシップ）を実施。

※就労分野例：農作業、設計(CAD)業務、調理補助、障害者支援、介護補助 等

【H28年度】

5事業所で実施、20人中4人就労

【H29年度】

（第1回）19事業所で実施、14人中6人就労

（第2回）21事業所で実施、17人中6人就労

仕事面での
活躍の場づくり

・希望する「仕事」を通じた活躍
・これまでの知識や経験、技術を
活かした活動



・人手不足の解消
・短時間勤務やワークシェアリングなど
による新たな働き方の実践

〔今後の予定〕

- ・H30年度に地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業）申請予定。
- ・シニア世代向けの学び直し・リカレント教育実践の場として県立広島大学と新たな連携事業を実施予定。
- ・H30年度に研究事業として、市民・県民のニーズ調査を実施予定。
- ・シニア世代の生活満足度を高め、就労などにもつながる支援策の充実を図り、市民・県民が動き出し・集う場となる「（仮称）シニアアカデミー」の開設をめざす。

基礎データ

- ・人口：95,549人（H30.3月時点）
- ・H29.4三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略を一部改訂（H27.10策定）
- ・地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金（H29.第1回）を活用
- ・事業主体：NPO法人ミライディア（H29年度三原市生涯活躍のまち推進事業補助金に係る事業提案公募事業者）

